

より多彩な学びへと誘う～“つくば型チュートリアル教育”が始動

チュートリアル教育は個人指導によって「学び」を深めていくことですが、筑波大学では、学士課程の教育改革の一環として、「学問探究チュートリアル」を今年度から開講しています。受講している学生からの好意的反響も受けて、来年度の更なる内容拡充に向けて動きを進めています。チュートリアル教育については、2020年10月に本学が「指定国立大学法人」に指定を受けた際に、将来構想の中で全学的な導入を掲げているものです。

筑波大学は、学問領域の垣根を低くした教育・研究が特徴ですが、今回開講した科目は、すべての学群（学部より広い）から受講希望者を募ったものです。専門学問領域を深める前に、まず学生自らが興味を持てる分野を開拓すべく、様々な学問領域から構成された教員が個人的に寄り添い、学問探究を無限に広げてもらうことを目指しています。その意味で、2021年度に導入された「総合学域群」と同じく、筑波大学特有のものと言えます。

パイロット段階の今年度は36名の学生と教員約30名によるチュートリアル教育が始まっています。

「将来どうなりたいか」「大学で何を学びたいか」。学生自身の興味関心を出発点として、教員と学生が個別指導の形で対話をしながら問いを立て、学びを深めていきます。学生は希望すれば専門分野を問わず全学の教員にアドバイスを求めることも可能です。

春学期は、150分×5回のワークショップを通じて自身の興味関心を深掘りし、学修プランを作成しました。秋学期はそのプランをもとに学生2名対教員2名で対話をしながら学修を進め、1月には1年間の学修を振り返る発表会を開催します。幅広い専門分野を有し、教員一人あたりの学生比率が低い本学だからこそ実現可能な多分野融合の少人数教育と言えます。

筑波大学は、開学時から理系・文系といった領域に捉われない教育を進めてきました。情報とコンピューターの基本概念やデータ情報の収集・管理・分析などを必修としています。また、ほぼ全ての学群生が、学問領域に捉われずに多くの授業を取ることができることも特徴です。そうした歴史の上に今回の「学問探究チュートリアル」も実現しています。

チュートリアル教育を辿ると、オックスフォード大学でのチュートリアル教育に行き着きますが、専門学問領域をチューター（個人指導教員）によって、より専門性を高めることが目的となっています。これに対して、学問領域の垣根が低い「学際性」を特徴とする本学におけるチュートリアル教育は、学生にあらゆる学問分野での学びの可能性を切り開くものを目指しています。

本学の指定国立大学法人構想に掲げられ、第6期中期目標・計画期間（2034～2039年）に全学的に導入することを目指しています。今後の展開と改善に向けての検討も始まっています。

（参考）<https://tutorial.edu.tsukuba.ac.jp/>



より多彩な学びへと誘う～“つくば型チュートリアル教育”が始動

「学問探究チュートリアル」は、入学直後の学生が自らの問題意識を出発点に、大学での学修をデザインできるようにする事を目指す科目（一年次向けに開講）

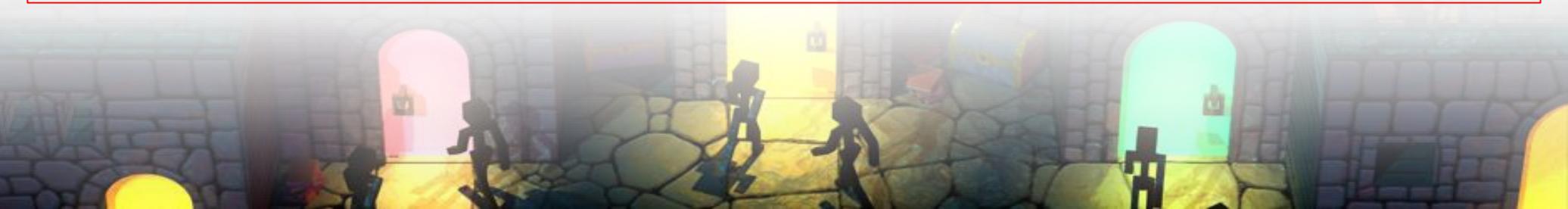
- 筑波大学が育成したい人材像：

創造性豊かな思考力で未来をデザインできる力を持った人材
社会課題を解決するアイデアを持ち、変革をリードできる人材

- そのような人材が育つための第一歩：

自らの問題意識をもとに大学での学修をデザインし、
自ら問いを立て、主体的に学修を進めることができるようになること

→「学問探究チュートリアル」の開始



「つくば型チュートリアル教育」の学修プロセスの「青写真」

第6期中期計画期間（2034～）に学生
1600人/学年 規模の実装をめざし、
学士課程教育の充実と改革をはかる
（指定国立大学構想）

③以降のプロセスは
今後の実装に向けて
準備、調整をしていく

2024年度に開始した「学問探究チュートリアル」はこの部分を担う

学修プロセス

④ 専門分野で問いをさらに究める

年次も進み、問いをその専門分野の教員の指導の下で究めます。問いが自分の学群・学類の専門分野に近ければ、その教員が指導に当たることになるでしょう。アドバイザー教員との相談も大いに可です。

③ 智を活かし創造力を鍛える

問いを解く手がかりになる知識や知恵を学び研究のための基礎を造ります。学内の講義科目も積極的に使う計画も立ててみます。様々な知識を縦横に絡め、創造力も鍛えます。ここでもアドバイザー教員**やチューター教員*が相談にのります。

② 問いを定め、多様な専門分野の広がりから学ぶ・気づく

「学問探究チュートリアル」で自分自身の問題意識を醸成し、問いを定めてみます。それを様々な専門分野から見つめ、視野を広げて気づきを得ます。アドバイザー教員**も協力します。

① 自らの問題意識はどんな問いを導く？

究めてみたいと思うことは何かを考え、これを種に「学問探究チュートリアル」でチューター教員と協働で思考を深めて視野を広げ、気づきを得ます。

⑥ 現場での学びを得る

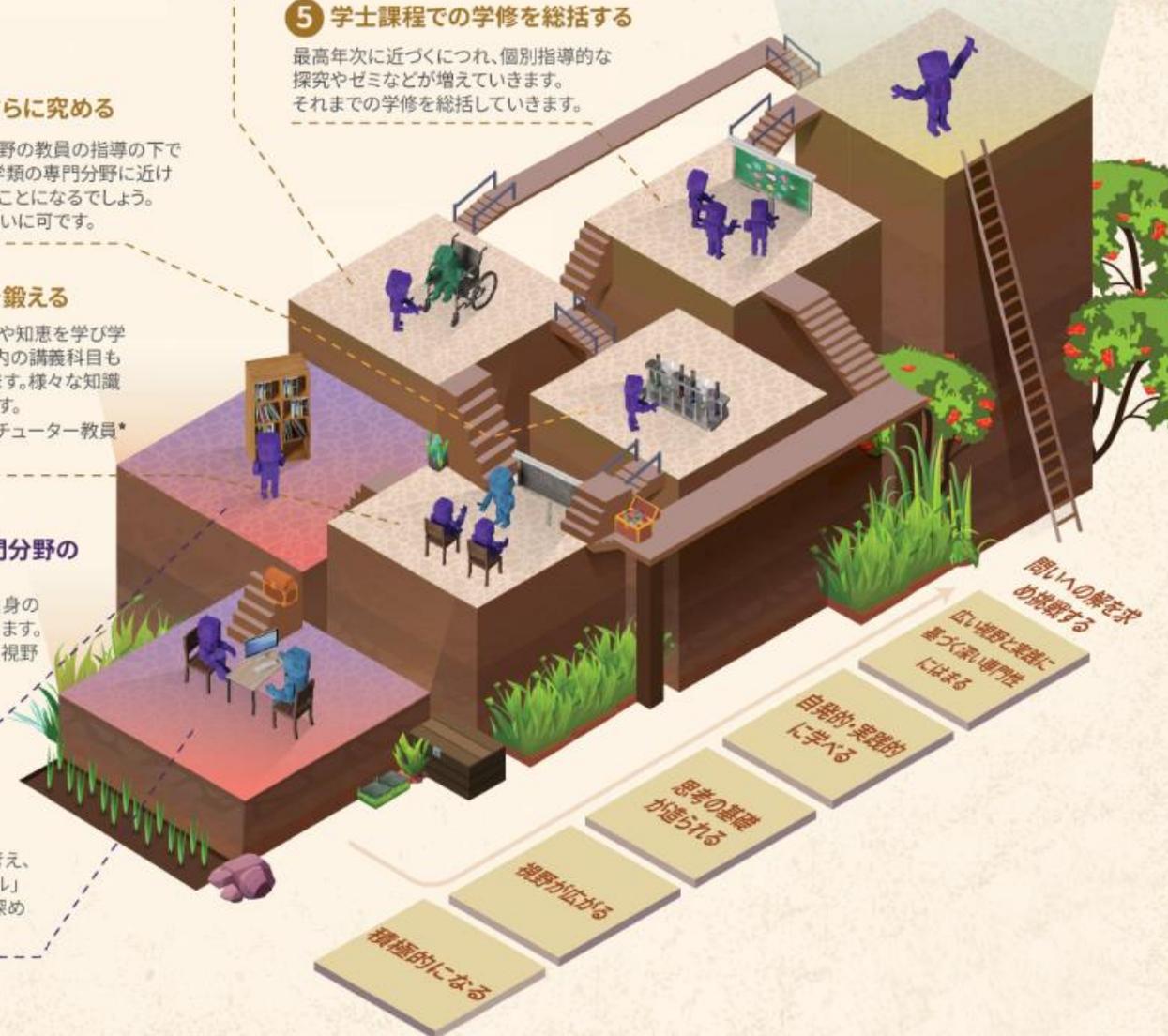
様々な企業や団体が実施するインターンシップに参加すると、問いの源になる現場を体験できます。

⑤ 学士課程での学修を総括する

最高年次に近づくにつれ、個別指導的な探究やゼミなどが増えていきます。それまでの学修を総括していきます。

未来社会の
デザインに貢献
地球規模課題の
解決に貢献

社会で活躍
大学院進学
〔創造的〕デザイン思考



参考：2024年度「学問探究チュートリアル」の授業計画

※詳細はシラバス参照：<https://kdb.tsukuba.ac.jp/syllabi/2024/1226016/jpn/0>

2024年度受講者実績 36名 (40名定員)

回	日付	カテゴリ	時間	内容 (タイトル)
1	5/29	ワークショップ	150分	ガイダンス／アイスブレイク／学究人生紹介①
2	6/5	ワークショップ	150分	学究人生紹介②／地球規模課題 de How to Think①
3	6/12	ワークショップ	150分	地球規模課題 de How to Think②
4	6/19	ワークショップ	150分	地球規模課題 de How to Think③
5	6/26	ワークショップ	150分	大学での夢語り
6	7月上旬	個別対話	50分	個別対話①
7	7月下旬	個別対話	50分	個別対話②
夏休み				
8	10/9	ワークショップ	150分	学修プラン作成ワークショップ
9	10月中旬	個別対話	75分	個別対話③
10	10月下旬	個別対話	75分	個別対話④
11	11月上旬	個別対話	75分	個別対話⑤
12	11月中旬	個別対話	75分	個別対話⑥
冬休み				
13	1/15	発表	150分	学究プロセス発表

ワークショップ
は参加学生・
教員全員で
実施

個別対話は
学生2名・
教員2名の
ペアで実施

参考:「学問探究チュートリアル」の大まかな流れと学修到達目標

大まかな流れ

ワークショップ (春B)

“How to Think”を身につける
～インプット・準備編～



個別対話 (春C～秋C)

“How to Think”を身につける
～実践編～

◆各回のアクティビティのポイント

【第1、2回】学究人生紹介

- ・受講生とチューター教員との間の心理的距離を縮め、意思疎通を図りやすくする。
- ・チューター教員の内発的動機と学問的な考え方 (How to think) を知る。

【第2～4回】地球規模課題 de How to Think

- ・何が課題であるかを見極め、問いを立て、解決の糸口になる手立てを見つける練習をする。(題材:地球規模課題)
- ・協働作業や他者の意見を傾聴する経験をとおして、個別対話に入るレディネスをつくる。

【第5回】大学での夢語り

- ・受講生自身の考えを伝える心理的バリアを低め、意思疎通を図りやすくする。
- ・大学での夢を語り共有することで、自らの学修をデザインする意欲を高める。

【第8回】学修プラン作成ws

自らの問題意識を深掘りし、その問題意識をどのように深め、究めたいか、仮のプランを作ってみる。

【第9～14回】個別対話

・少人数のグループで受講生と教員が個別的な対話を行い、自ら興味を持つ問いを立て、その問いに沿った活動を計画し、実践を試みる。

- ①学修プラン案をさらに深める
- ②実際に学修を進める
- ③必要に応じて専門の教員(アドバイザー教員)からアドバイスをもらう
- ④学んだ内容を振り返って学修プランをさらに深める

【第15回】学究プロセス報告会

自らの学修の軌跡を他の学生と共有しあい、2年次以降の学修(プロセス③以降の学修)の見通しを立てる。

学修到達目標

1. 大学において自らが極めてみたい問題意識を学問的な課題として整理することができるようになる。
2. 自ら整理しようとしている課題に関連して、その整理に資する資料や知識を収集することができるようになる。
3. 自ら収集した資料や知識に基づき、問題意識や課題と密接に関連する学問分野や研究分野が特定できるようになる。
4. 自らの問題意識や課題について必要に応じて教員に助言を求めることができるようになる。
5. 上記1.～4.による学修を踏まえながらそれまでの気づきや学びを整理して、卒業に至るまでの学修を学際的にデザインし、または、そのデザインを随時修正できるようにする。

卒業までに期待する到達目標

分野や方法論の壁を超え、
「創造的」解決指向に
到達する
思考(デザイン思考)が
できるようになる。